

副本

令和元年（ワ）第172号，令和3年（ワ）第181号，

令和5年（ワ）第290号

違法行為差止請求事件

原 告 和 田 廣 治 外7名

被 告 金 井 豊 外2名

令和6年2月26日

上 申 書

富山地方裁判所 民事部合議C係 御中

被告ら訴訟代理人弁護士

神 田 光



補助参加人訴訟代理人弁護士

江 口 正



第17回口頭弁論において、補助参加人は、令和5年（ワ）第290号違法行為差止請求事件に係る補助参加申出書の陳述を、同事件被告及び補助参加人は、同事件に係る答弁書の陳述をそれぞれ予定している。

なお、令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震において、本件原子力発電所は、1, 2号機（定期検査により停止中）とも、外部電源や必要な監視設備、冷却設備及び非常用電源等の機能を確保しており、原子炉施設の安全確保に問題は生じておらず、また、本件原子力発電所に設置しているモニタリングポストの数値に変化はなく、外部への放射能の影響はない（別紙1）。この点、国も、本件原子力発電所の安全確保に問題はないとしているところである（別紙2）。

以 上

志賀原子力発電所の設備状況

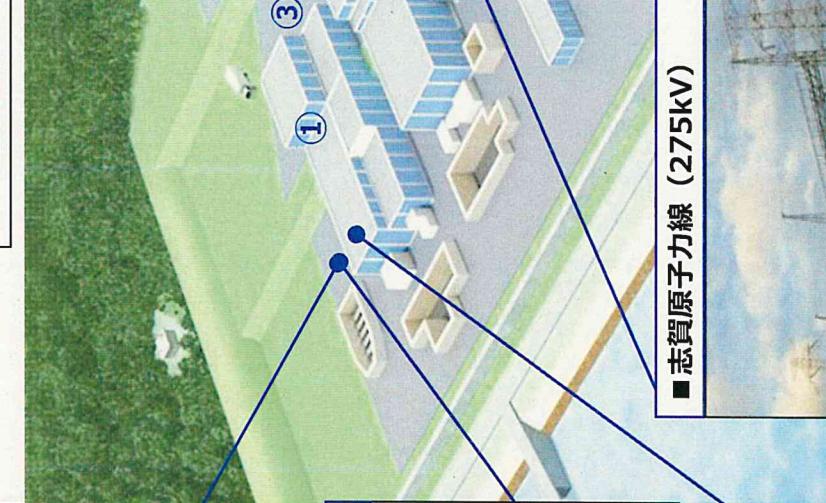
- 令和6年能登半島地震により、志賀原子力発電所では一部設備に被害が発生しましたが、外部電源や冷却設備等の重要な機能は維持しており、原子炉施設の安全確保に問題は生じておりません。
- 主な設備に関する現況写真をご紹介いたします。

別紙 1 1

■ 2号機 予備電源変圧器



■ 電源関係



■ バックアップ電源（一部のみ掲載）



■ ①非常用ディーゼル発電機（2号機）



■ ②大容量電源車



■ ③高圧電源車



■ 志賀原子力線（275kV）



■ ②号機 タービン建屋内



■ ②号機 主変圧器（停止中）

志賀原子力発電所の設備状況

2



■ 2号機 使用済燃料貯蔵プール

3

- 1月1日の地震により、使用済燃料貯蔵プール水が床面に飛散しましたが、外部への放射能の影響はない、既にふき取りを完了しています。（1号機：約95リットル、2号機：約326リットル）
- 水位に有意な変化はなく、冷却ポンプも正常に運転しております、使用済燃料の冷却方に問題はありません。

2024年1月10日撮影



■ 1号機 使用済燃料貯蔵プール

4

2024年1月22日撮影



■ 2号機 タービン建屋内

5

- 停止中の2号機低圧タービンにおいて「伸び差大」警報が発生しましたが、原子炉施設の安全確保に影響はありません。
- 今後、タービン内部の損傷の有無について確認することとしています。

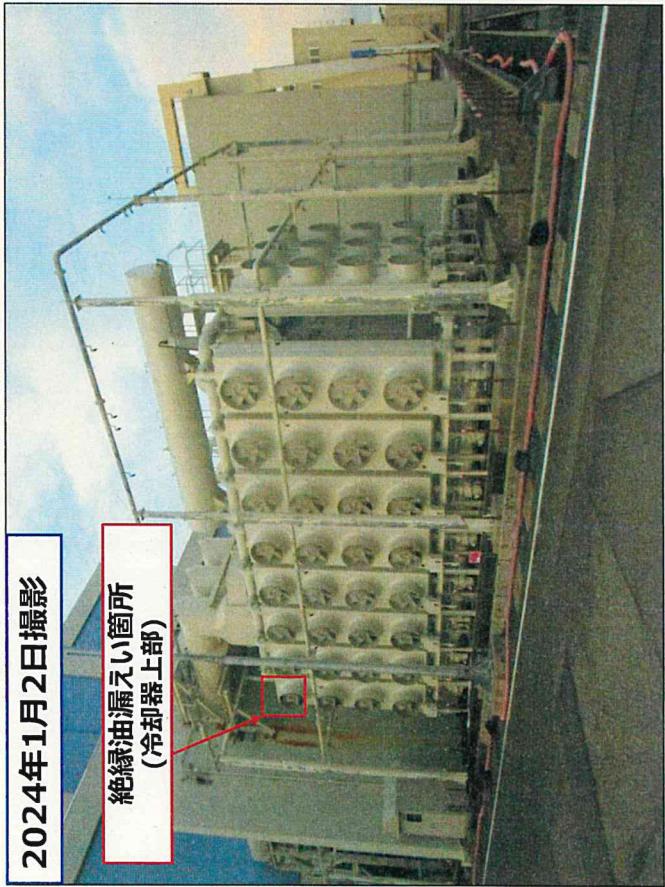
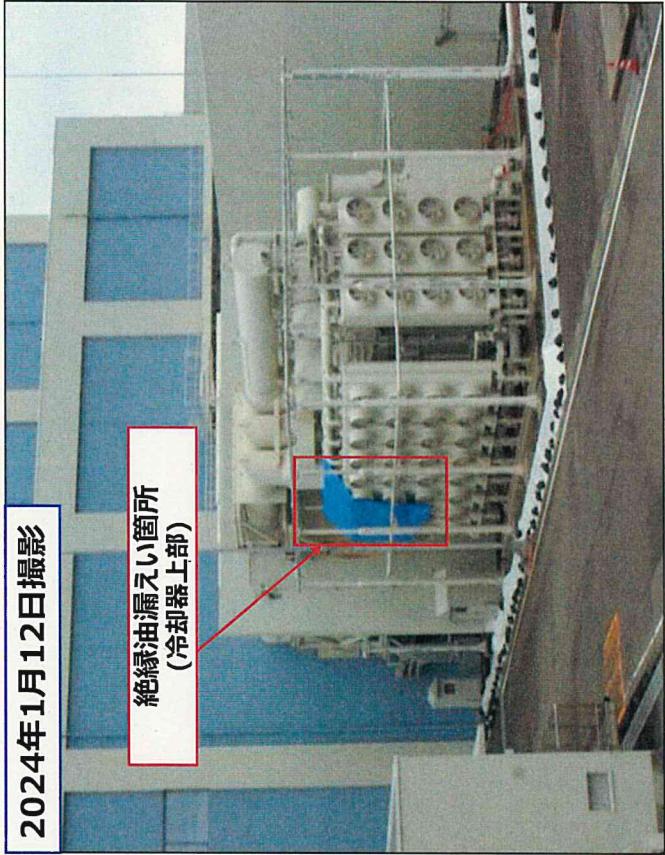
2024年1月10日撮影



■ 2号機 主変圧器（1/1地震による油漏れを受け、停止中）

6

- 1月1日の地震により、2号機主変圧器の保護回路が動作し、自動的に予備電源変圧器に切り替わりました。主変圧器から漏えいした絶縁油(は1月5日に回収が完了しています(絶縁油約19,800リットル(水分も含め約24,600リットル))。
- 発電所前面の海域で絶縁油が流れ出した可能性がある油膜をこれまでに2回確認しており、以下の対応を実施しています。いずれも、放射線管理区域内の漏油検知器等に異常ではなく、外部への放射能の影響はありません。
- ✓ 1月7日に確認したものは、中和剤等により処理を完了。
- ✓ 1月10日に確認したものは、排水ゲートを開止し、海岸部にオイルフェンスを設置。
- 現在、主変圧器の絶縁油漏えい箇所には、雨水侵入防止のブルーシートを被せています。



■ 2号機 予備電源変圧器（現在稼働中）

7

- 1月1日の地震により、主変圧器の保護回路が動作し、自動的に予備電源変圧器に切り替わりました。
- 現在、予備電源変圧器より受電しており、原子炉施設の安全確保に問題はありません。

2024年1月10日撮影



■ 1号機 起動変圧器（1/1地震による油漏れを受け、停止中）

8

- 1月1日の地震により、1号機起動変圧器からの油漏れがあることを確認したことから、同日、代替の予備電源変圧器への切替操作を実施しました。
- 起動変圧器から漏えいした絶縁油は1月2日に回収が完了しています（噴霧消火水を含め約4,200リットル）。

2024年1月2日 南側より撮影



2024年1月2日 西側より撮影



■志賀原子力線（275kV）開閉所・赤住線（66kV）

- 志賀原子力発電所への外部電源5回線のうち2回線（志賀中能登線2回線）が使用できない状態にありますが、1号機、2号機とも3回線（志賀原子力線1号線、志賀原子力2号線、赤住線）が使用可能です。
- 現在、1号機、2号機とも志賀原子力線から受電しています。



275kV 志賀原子力線
開閉所

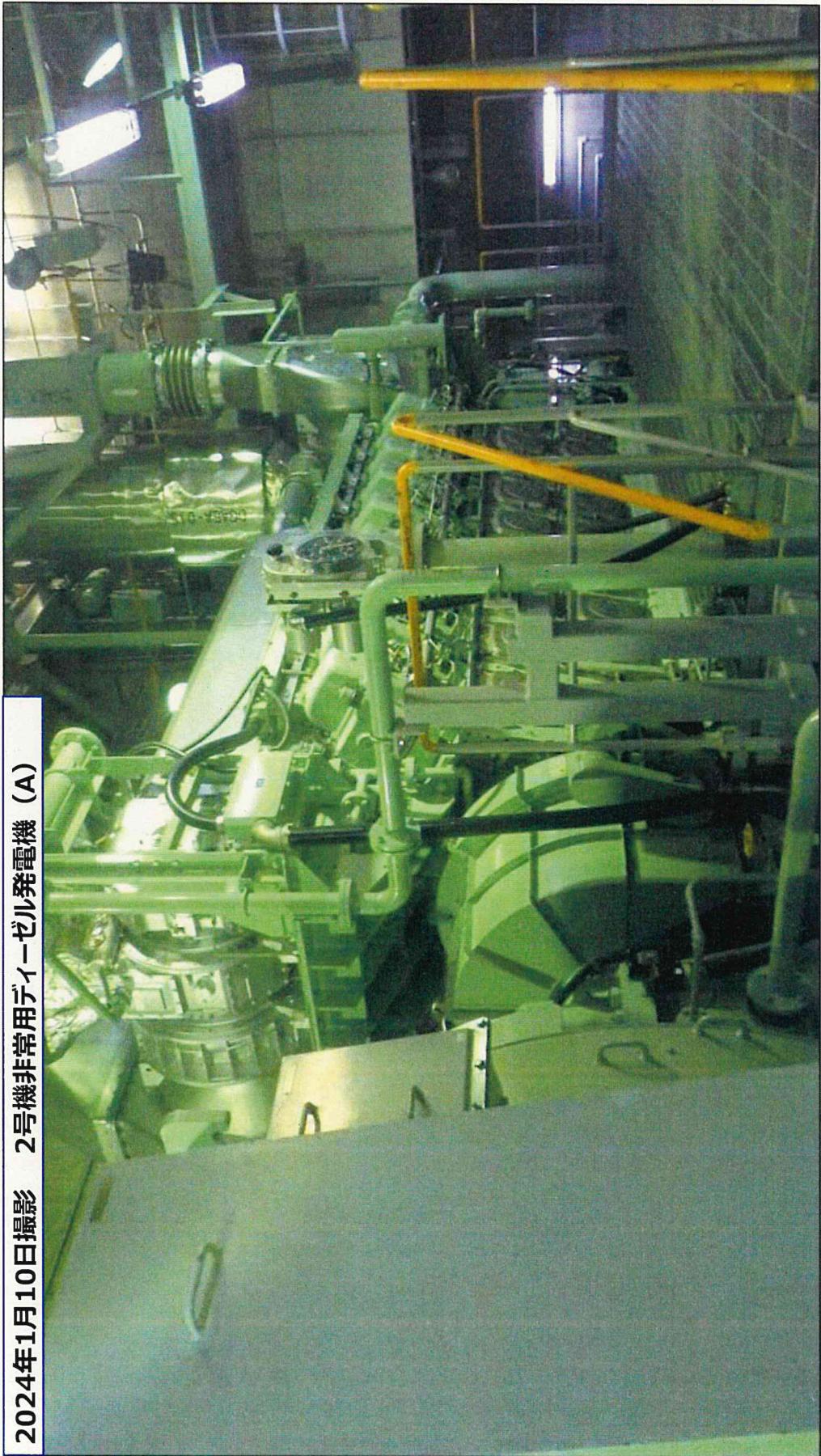


66kV 赤住線
志賀原子力線
気象観測鉄塔
赤住線
2024年1月22日撮影

■ バックアップ電源－非常用ディーゼル発電機

- 外部電源のバックアップ電源として非常用ディーゼル発電機（1号機：3台、2号機：3台 [うち1台点検中]）を確保しています。

2024年1月10日撮影 2号機非常用ディーゼル発電機 (A)



■ バッカアップ電源－大容量電源車

11

- 外部電源のバッカアップ電源として大容量電源車 2 台を配備しています。

2024年1月10日撮影



■ バックアップ電源－高圧電源車

12

- 外部電源のバッカアップ電源として高圧電源車 8 台（うち 1 台点検中）を配備しています。

2024年1月10日撮影



■原子炉建屋・タービン建屋・廃棄物処理建屋・固体廃棄物貯蔵庫

- 1号機廃棄物処理建屋と2号機廃棄物処理建屋を接続するゴム製のシール部材（エキスパンション）を覆う金属製カバーの脱落がありましたが、シール部材自体に損傷がないことから、外部への放射能等の影響はありません。

1号機 原子炉建屋・タービン建屋



2024年1月25日撮影

1, 2号機 廃棄物処理建屋



2024年1月2日撮影

2024年1月25日撮影



2024年1月25日撮影

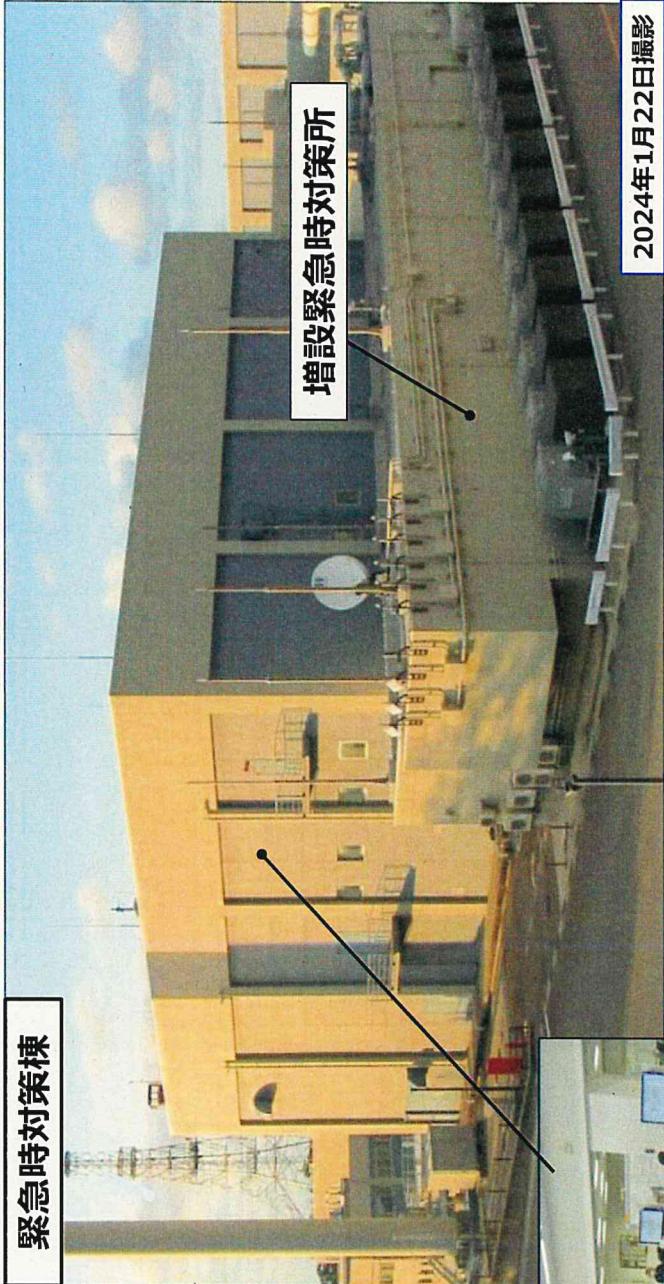


2024年1月25日撮影

■緊急時対策棟・増設緊急時対策所

14

- ・事故等発生時の対応拠点として独立した電源等を備えた免震構造の緊急時対策棟を設置しています。
- ・緊急時対策棟よりも更に遮へい機能、耐震性確保、火災防護対策を高めた増設緊急時対策所（指揮工リア）を緊急時対策棟の隣りに設置しています。
- ・今回の能登半島地震発生後の対応は緊急時対策棟の指揮工リアで実施しています。



2024年1月22日撮影

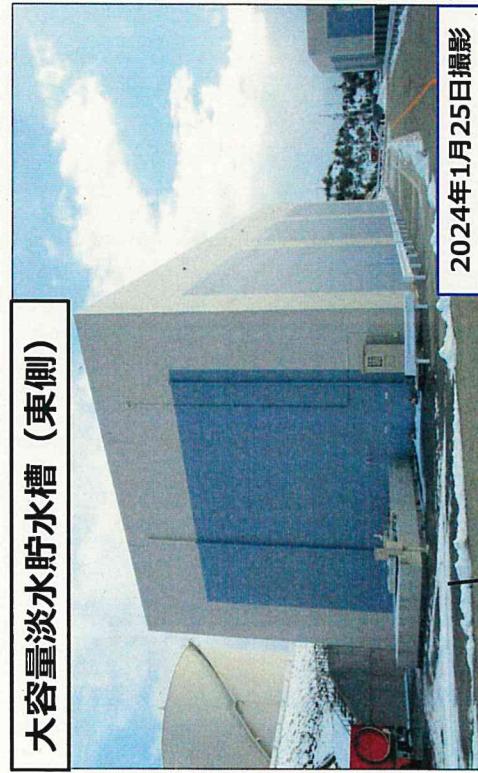


2024年1月22日撮影

■大坪川ダム・大容量淡水貯水槽

15

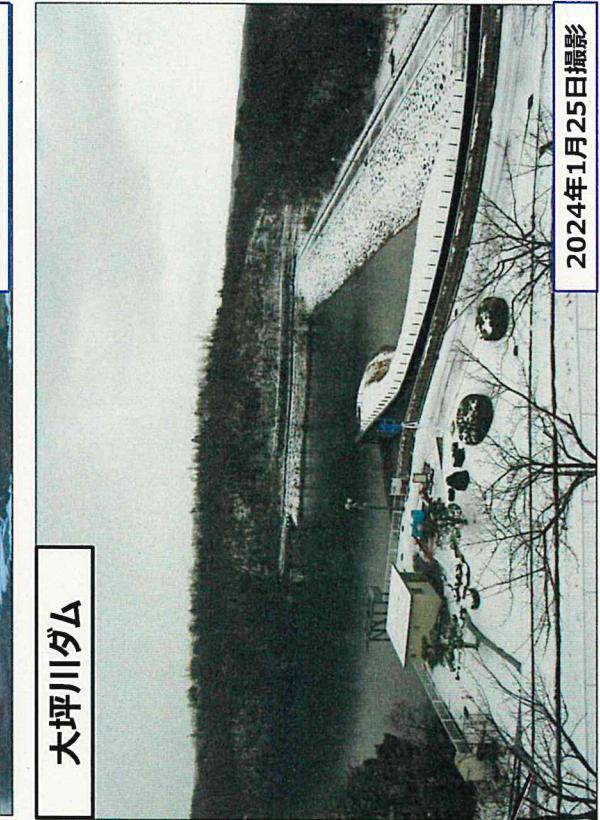
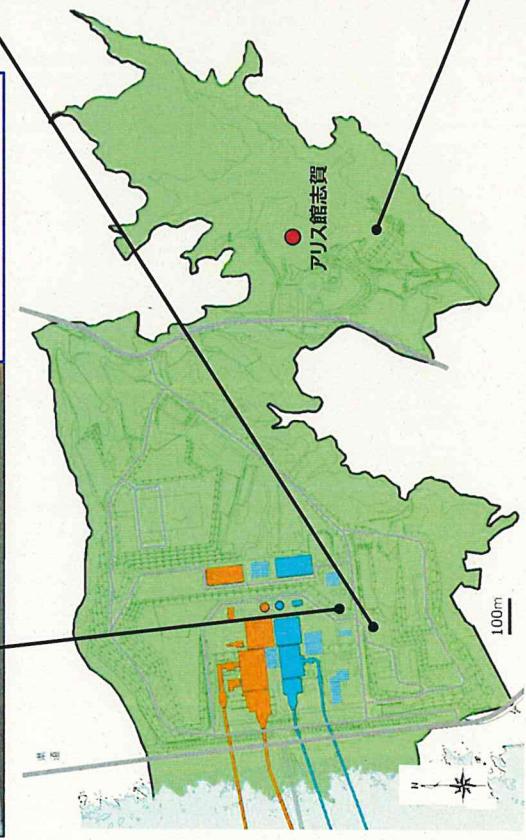
- 使用済燃料の冷却等に必要な水源の大坪川ダム（360,000m³）およびバックアップ水源の大容量淡水貯水槽（東側4,900m³、南側5,100m³）には、被害はなく、水源の確保に問題はありません。



大容量淡水貯水槽（東側）



大容量淡水貯水槽（南側）



大坪川ダム

■モニタリングポスト

16

- ・発電所敷地境界付近に7箇所設置し、空気中の放射線量率を常時測定記録するとともに中央制御室で集中監視を行っています。
- ・地震発生前後を通じ正常に測定しており、これまでに外部への放射能の影響がないことを確認しています。

モニタリングポスト№1



モニタリングポスト№7

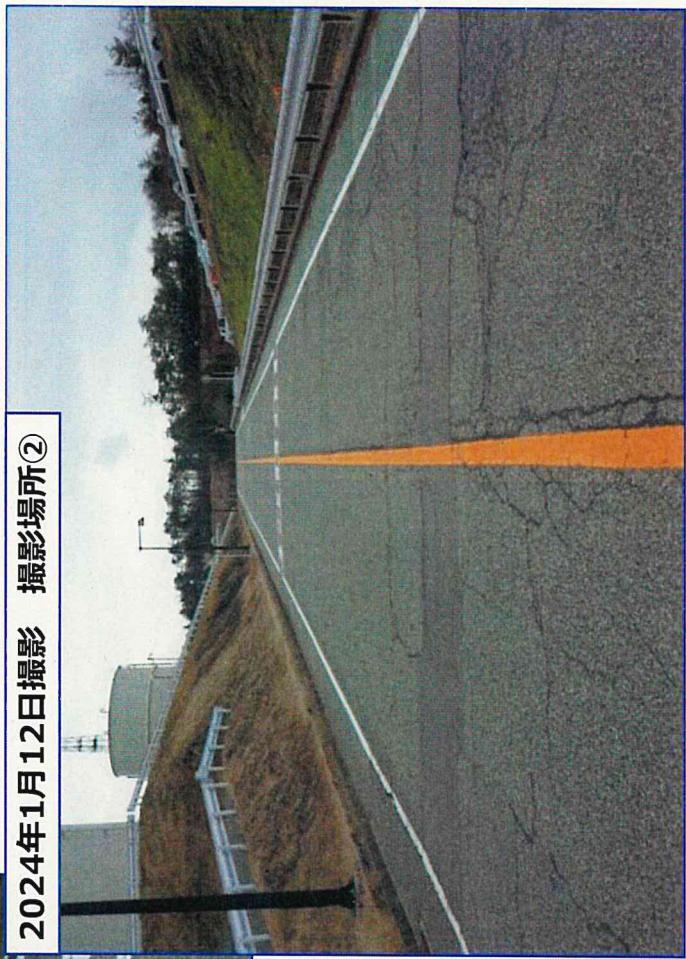


発電所敷地拡大図
MP : モニタリングポスト

■構内道路（南側）

17

- ・発電所構内的主要道路には、被害はなく、車両の通行等に支障はありません。

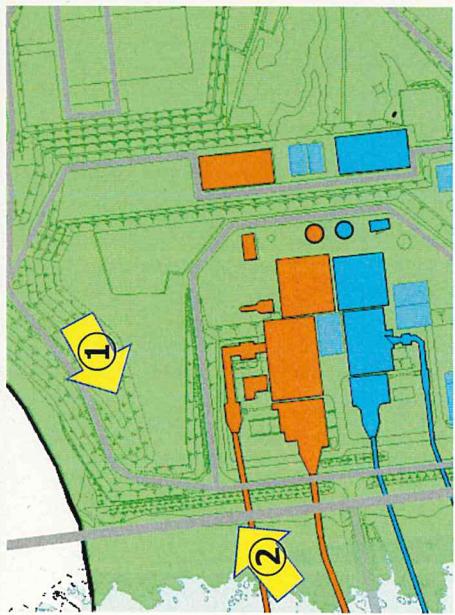


■構内道路（北側）

2024年1月25日撮影 撮影場所①



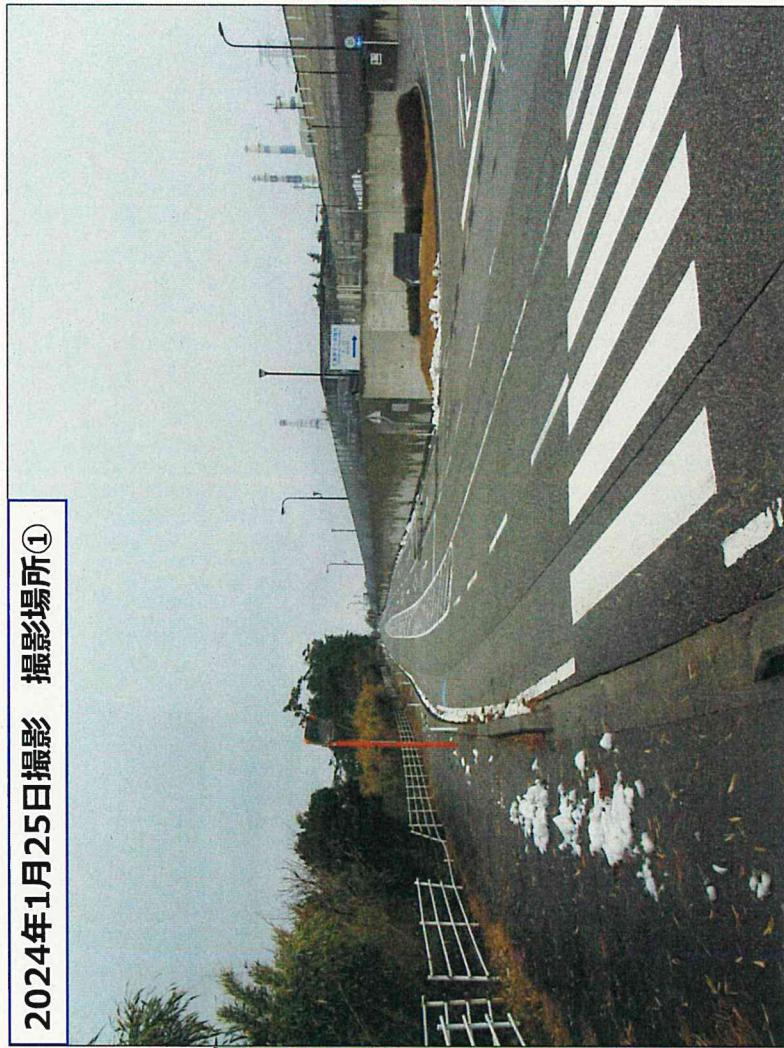
2024年1月25日撮影 撮影場所②



■発電所前面県道

19

- ・発電所前面の県道には、被害ではなく、車両の通行等に支障はありません。



2024年1月25日撮影 撮影場所①



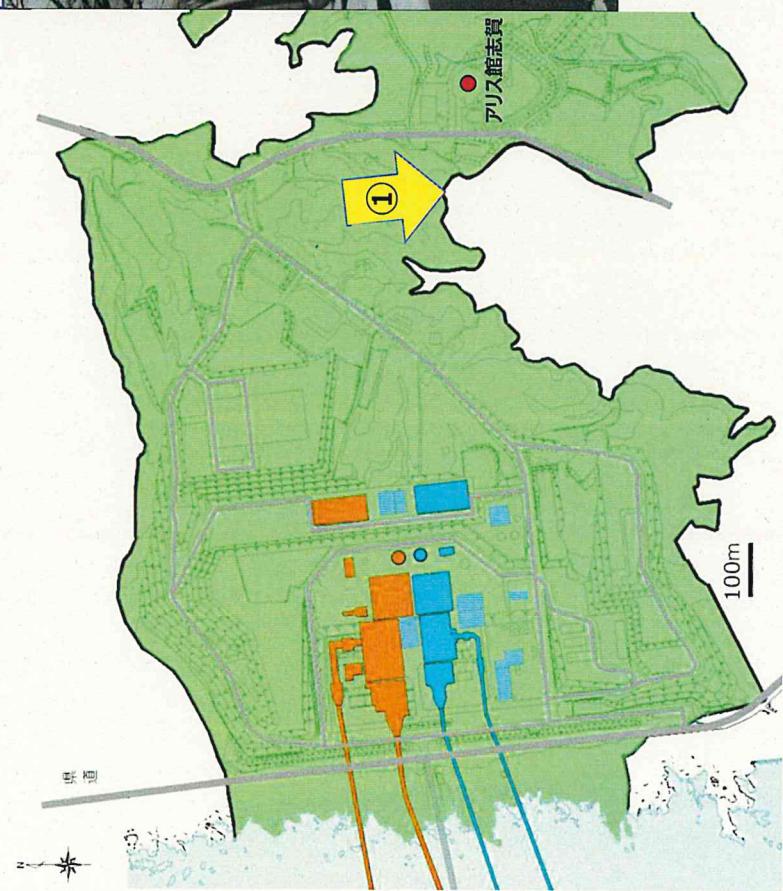
■発電所東側町道

20

- ・発電所の東側町道には、被害はなく、車両の通行等に支障はありません。



2024年1月25日撮影 撮影場所①



1日の衆院本会議代表質問で、能登半島地震の教訓を踏まえた原発対応が議題に上った。岸田文雄首相は将来的な再稼働をにらみ「地元の理解を得られるよう、国が前面に立つて原子力の必要性や意義を丁寧に説明していく」と強調した。国民民主党の玉木雄一郎代表は早期再稼働の必要性に言及。共産党の志位和夫議長は廃炉を求めた。

原発問題に焦点が当たるのは、多くの道路寸断や建物倒壊に見舞われた今回の地震を受け、原発事故を伴う複合災害の際に避難計画が機能しない恐れが取り沙汰されたためだ。断層活動を巡るリスクを指摘する声もある。

当面の原発対応について、首
相は「原子力規制委員会が新規制基準に適合すると認めた場合のみ、
(4)

地元の理解を得ながら再稼働を進めると強調。

今回の地震で一部損傷した北陸電力志賀原発（石川県志賀町）の安全機能に異常はないとした上で、「その他の原発についても、安全確保に影響のある問題は生じていないとされたと承知している」と指摘した。

安定した電力供給を重視する玉木氏は「志賀原発の安全性に問題はないと言宣言してほしい」と要請。東京電力柏崎刈羽原発（新潟県柏崎市、刈羽村）についても「再稼働が必要だ」と訴えた。

原発の危険性を指摘する志位氏は、能登半島に位置する志賀原発で事故が起きれば「住民避難さえできない」と主張。柏崎刈羽原発を含め「直ちに廃炉を決断すべきだ」とした。

「志賀原発 安全機能異常ない」

首相、前面に立ち再稼働 説明